

7月21日(木)から8月31日(水)まで

**夏休み期間は毎日開館します。**



春日井市図書館は夏休みのあいだ、月曜日も開館します。ぜひご利用ください。

※グルッポふじとう図書館、各公民館・ふれあいセンター・グリーンパレス図書室は通常どおりの休館日です。各館・各室の開館状況は開館カレンダー等をご覧ください。

### 3階展示コーナー 企画展示

#### 夏休みの課題に役立つ本特集

自由研究に役立つ本や、過去の課題図書など展示します。(7月下旬頃から予定)

### 3階児童コーナー

#### 本の福袋

児童書3冊セットの「本の福袋」を貸出します。どんな本が入っているかは借りてからの楽しみ。(8月上旬頃から予定)

※新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、予定が変更になる場合があります。

## 課題図書の利用について

7月から8月にかけて「青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書の利用が急増します。多くの方に利用していただくため、7月1日(金)から8月31日(水)まで、課題図書の貸出期間等を変更します。ご理解、ご協力をお願いいたします。

- ① 課題図書の貸出は1枚の利用者カードにつき1冊です。
- ② 貸出期間は8日間です。延長はできません。
- ③ 課題図書の予約は1枚の利用者カードにつき1冊です。なお、課題図書を借りている間は、他の課題図書の予約はできません。予約は窓口のみで受付します。

## 感染症対策に ご理解、ご協力をお願いします

新型コロナウイルスの感染拡大状況等により、図書館・図書室の開館状況やサービスの内容等が変更になる場合があります。変更の場合は、ホームページ等でお知らせします。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

春日井市図書館 電話：(0568)85-6800

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5丁目44番地 文化フォーラム春日井 3・4階

開館時間：午前9時～午後8時 休館日：月曜日(休日の場合はその直後の休日でない日)

## おすすめ本紹介

# エッセイ

思いがけず長いお家時間を過ごす中で、いろいろな本を読まれたことと思います。

たまにはエッセイも読んでみませんか？ここでは、茶道と映画、子育てと短歌、料理のエッセイをご紹介します。



### 『青嵐の庭にすわる』

森下 典子/著 文藝春秋 778.2/セ/21 (図書館3階実用)

『日日は好日 「お茶がおしえてくれた15のしあわせ」』の著者による映画制作にかかわった日々の、喜びと苦労を綴ったエッセイです。

本の出版から十数年後、映画化が決定！ミーハーな気分から一転、茶道指導の責任者になることに。映画人たちの仕事ぶりの見事さ、映画化の経緯、ロケ地の家や茶室、お道具などを巡る人と人とのご縁のすばらしさに何度もほろりしました。

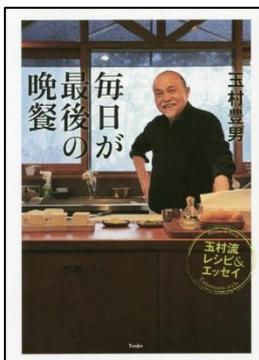
### 『ありがとうのかんづめ』

俵 万智/著 小学館 914.6/タワ/17 (図書館4階一般)

朝ドラで主人公の弟が、俵万智さんの「サラダ記念日」風な恋の歌を詠む場面を見て、短歌っていいなあと思いました。

この本は、歌人である著者が息子さんとの子育ての日々を短歌とエッセイでまとめたものです。タイトルになったエピソードにはこの短歌 (p. 23)。

日本語の響き最も美しき二語なり 「おかあさん」「ありがとう」



### 『毎日が最後の晩餐 玉村流レシピ&エッセイ』

玉村 豊男/著 天夢人 596/マ/19 (図書館3階実用)

エッセイストで画家、ワイナリーオーナーの玉村豊男さんの毎日の暮らしとお料理レシピを記したエッセイです。

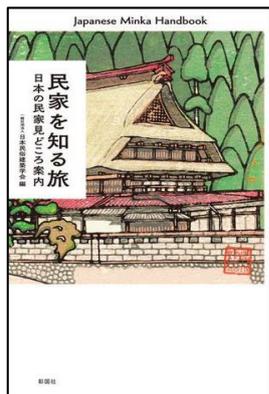
ブドウ畑の美しい風景の中にある「ヴィラデスト」での美しい暮らし。畑での労働を終え、料理し、きちんと丁寧に夕食の時間を過ごす。料理を始めて50年以上になる75歳の著者の経験や美意識に裏打ちされた、こだわりのライフスタイルが素敵です。

『新 田園の快樂 ヴィラデストの27年』他多数の著書もご参考に。本書の続編も所蔵しています。

おすすめ本紹介

# 日本の住まい

人の住まいは、その地域の気候、手に入る材料、文化や生業によってさまざまな形をしています。そして、快適な生活を求め、進化してきました。日本国内でも、地域や時代によって住まいの形は異なります。日本の住まいがわかる3冊を紹介します。



## 『民家を知る旅』

日本民俗建築学会/編 彰国社 521.8/ミ/20 (図書館4階一般)

北海道から沖縄までの特色ある民家を約100例取り上げ、カラー写真とともに見どころを解説。この本で取り上げる「民家」とは、「庶民の住まいをいい、住まいの場となる建物が生産活動の場を兼ねたもの」としています。各地の民家には、時代や風土、生業などを反映した特徴があり、それによって街並みの様子も違ってきます。現地に訪れたい本です。

## 『図説日本住宅の歴史 改訂版』

平井 聖/著 学芸出版社 383.9/ス/21 (図書館4階一般)

竪穴住居から現代の3DKの住宅まで、日本の住まいの歴史がわかる本。日本の住宅がどんな経緯ででき上がったのか、どんな特徴を持っているかを知り、これからの住宅がどう変化していくのか想像してみませんか。手書きの図版がたくさんあり親しみやすく、建築の専門家でなくても楽しめる本です。



## 『「奇跡」と呼ばれた日本の名作住宅』

エクスナレッジ 527.1/キ/20 (図書館4階一般)

現在の日本の住宅の原型が生まれたのは1950年代。戦後の住宅設計の発展を辿りながら、建築業界にインパクトを与えた住宅と建築家を紹介します。名作と呼ばれる住宅の中には、暮らしやすさや美しさだけでなく、生産方法や街のあり方に注目して設計されたものが多くあります。建築にまつわるできごとをまとめた年表も掲載。

おすすめ本紹介

## 食べられる雑草

道を歩いていると必ず目にする物。それは草です。雑草なんて呼ばれて厄介者扱いされていますね。もしかして食べたりできる物もあるのかなあとすごく単純に思いつき興味がわきました。今回はそんな私の疑問に答えてくれる本を紹介します。



### 『草と暮らす』

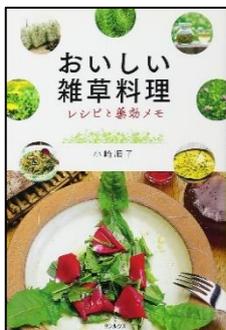
かわしま ようこ/著 誠文堂新光社 596.3/ク/16 (図書館3階実用)

大自然からの恵みである雑草に感謝して、共生しながらいかに楽しんでいくかという著者の雑草愛が感じられます。レシピは、見た目も可愛らしく、おいしそうなメニューです。しかし、むやみやたらに食べるのではなく注意することや下ごしらえの大切さもきちんと教えてくれます。自然体で生きている著者の暮らしに憧れます。

### 『散歩で見つける薬草図鑑 見分け方・使い方がよくわかる』

指田 豊/監修 家の光協会 499.8/サ/21 (鷹来)

この本では、薬草として使われている植物たちが紹介されています。その中に雑草も含まれています。毒があるものや使用する時の注意点など詳しくかかれています。薬効があるということは逆もあるということ。ドクダミなどよく知られている薬草も、煎じ方など詳しく書かれています。



### 『おいしい雑草料理』

小野 順子/著 サンルクス 596.3/オ/17 (図書館3階実用)

タンポポ、スギナ、ヨモギ、ハコベ、ツユクサ、オオバコ、どれも道を歩いていると目にはいる草達ばかりです。なぜ「野草」ではなく「雑草」と呼ぶのか？の問いかけからはじまります。「雑草は毎日の生活で消耗しがちな自分を支えてくれている。」と、そこまで草達を愛する著者の気持ちが素敵です。